



ありそうな霧囲気が出てきたというのに、小さな支流に入らねばならぬといとは、何となく残念な気がしたが、結果的にはこちらの沢の方が面白かったようだ。

上文殊沢入口は平凡であったが、少し進むとV字に切れ込み、滝が出てきりそうな気配。そして、滝が出てきた。五段程度のもものが三つ。いずれも直登。ホールド豊富で、今日が沢登り二回目の阿部さんにとっても、手頃な滝登りになっただろう。こんな調子ならこの先も期待できそうである。

伐採されて明るくなった部分を過

ぎると、またV字に切れ込んだ沢筋となる。小滝がいくつも出てくるの

下文殊沢(仮称)右俣

上

一九八五年九月二八日

飯坂温泉からバイクを使って下文殊沢へ。一時間程で鳥川林道六号橋へ到着。身仕度を整えて、林道から踏跡にそって下文殊沢出合に降りる。出合に立つと、連瀑となって滝がかかる。左岸なら濡れないで登れるが、今日はシャワークライミングを楽しむながら直登する。

で、登るにあきない。

稜線直下まで流れが続いて、一時四〇分、尾根上に出る。

(記・下)

「タイム」出合(九・三〇)↓遊行終

了(二一・四〇)

すぐ二俣となる。右俣には二段程度の小さな滝がかかっている。水量は、二対三で右俣の方がいくらか多い。右俣に入って遊行を続ける。

右俣は、次から次へと適当に滝が出てきて、あきることはない。簡単に直登でき、沢の入門コースとして最適である。

